

大阪府下における「南海トラフ巨大地震・津波の想定結果」の公表について

平成25年8月8日に「大阪府防災会議・第3回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」において公表された各種想定結果のうち、大阪市域に係る内容については以下のとおりである。

1. 公表内容（要旨）

- 震度分布・液状化の可能性については、地震動モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が公表した5つのケースから、大阪府域に最も大きな影響を与えると考えられる2つのケースを選定し、推計した。
- 津波浸水想定は、大阪府沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が公表した11のケースから、大阪府域に最も大きな影響を与えると考えられる4つのケースを選定し、これら4ケースごとに、防潮堤等の沈下や、防潮施設（水門・鉄扉等）の開閉を考慮した3つのシミュレーション結果（12ケース）を重ね合わせ、最大の浸水域（浸水の区域）と浸水深（水深）を推計した。

【地震による揺れの影響】

① 震度分布

別紙-1

- 内閣府発表（H24.8.29）では、震度6強が7区、震度6弱が17区となっていたが、今回、24区すべてが最大震度6弱と下方修正されている。

② 液状化の可能性

別紙-1

- 内閣府発表（H24.8.29）では、本市従来想定（H20.3）において「液状化しにくい」とされていた地域についても、「液状化の可能性大」と推計されたが、今回、さらに「液状化の可能性大」と推計された地域が広がり、上町台地の一部についても「液状化の可能性大」と推計されている。

【津波の影響】 別紙-2

① 津波高さ

	H25.8.8大阪府発表 [海岸線から沖合約30m地点 における津波水位]	H24.8.29内閣府発表 [海岸付近の最大値]	本市従来想定（本市地域防災計画 H20.3）		海岸付近の 堤防高さ
			[海岸付近最大値]	[各区最大値（参考）]	
此花区	OP+5.4m（TP+4.1m） <3.2m>	OP+4.4~5.3m（TP+4m） <2.2~3.1m>	OP+4.1m（TP+2.8m） <2.0m>	OP+4.3m（TP+3.0m） <2.2m>	OP+6.2m~8.0m
港区	OP+5.8m（TP+4.5m） <3.6m>	OP+4.4~5.3m（TP+4m） <2.2~3.1m>	OP+4.5m（TP+3.2m） <2.4m>	OP+4.6m（TP+3.3m） <2.5m>	OP+5.7m~7.2m
大正区	OP+5.9m（TP+4.6m） <3.7m>	OP+4.4~5.3m（TP+4m） <2.2~3.1m>	OP+4.5m（TP+3.2m） <2.4m>	OP+5.0m（TP+3.7m） <2.9m>	OP+5.7m~6.6m
西淀川区	OP+5.6m（TP+4.3m） <3.4m>	OP+4.4~5.3m（TP+4m） <2.2~3.1m>	OP+4.1m（TP+2.8m） <2.0m>	OP+4.3m（TP+3.0m） <2.2m>	OP+7.6m~8.1m
住之江区	OP+6.4m（TP+5.1m） <4.2m>	OP+5.4~6.3m（TP+5m） <3.2~4.1m>	OP+4.5m（TP+3.2m） <2.4m>	OP+4.8m（TP+3.5m） <2.7m>	OP+5.7m~6.6m

※ H24.8.29内閣府発表の津波高（TP+〇m）については、小数点以下が切り上げされている。

※ OP表示の潮位は、大阪市の満潮位 OP+2.2mを設定。<>内は満潮位からの高さ。

※ 海岸に面している地区のみを公表（ただし想定場所は不明）、内閣府及び大阪府発表と本市従来想定の場合は必ずしも同じではない。

※ OP：大阪湾最低潮位

TP：東京湾平均海面（OP=TP+1.3m）

② 浸水面積等

区	浸水面積 ^{※1} (ha)		地震発生後最短到達時間 ^{※2} (分)	
北区	322	(※)	—	
都島区	101	(※)	—	
福島区	379	(※)	—	
此花区	816	(30)	113	(113)
中央区	21	(※)	—	
西区	426	(※)	—	
港区	620	(20)	114	(121)
大正区	665	(※)	117	(122)
浪速区	193	(※)	—	
西淀川区	840	(20)	116	(120)
淀川区	756	(90)	—	
旭区	21	(0)	—	
城東区	259	(※)	—	
鶴見区	41	(0)	—	
住之江区	1,174	(50)	110	(110)
住吉区	13	(0)	—	
西成区	499	(40)	—	
市域計	7,146	—	—	
(参考) 府域計	11,072	(3,050)	—	

() は、内閣府公表 (H24.8.29)

※1 浸水面積は、河川等部分を除いた陸域部の浸水深1cm以上。小数点以下第一位を四捨五入。内閣府公表は府域で浸水面積が最大となるケース。10ha単位。※は10ha未満の浸水を表す。

※2 最短到達時間は、+1mの津波が襲来する時間。

3. 大阪府の今後のスケジュール (予定)

- 秋 頃 : 人的・物的被害想定結果の公表
- 冬 頃 : ライフライン・経済被害想定結果の公表
- 平成25年度末: 「大阪府地域防災計画」の改訂

4. 本市の今後の方針

- ・ 新たに津波の浸水が想定された北区、都島区、中央区、旭区、城東区、鶴見区、住吉区においても地域事情に応じた津波避難施設の確保など、“津波からの避難”を優先した直ちに取り組める対策を進めていく。
- ・ 今回の地震・津波の想定結果に基づく人的被害・物的被害等の算定について府市共同で取り組み、その結果に基づいて具体的な対策を進める。
- ・ また、今回の公表も踏まえ、大阪市防災会議に設置している専門部会において、「自助・共助・公助のあり方」や「多様な災害における避難のあり方」等の様々な課題について、学識経験者等の専門的な見地から今後必要となる具体的な対策を検討し、平成25年度末に「大阪市地域防災計画」の改訂を予定している。